



社会医療法人ペガサス 馬場記念病院
理学療法士



障害シリーズ① 運動機能障害（脳卒中）の基礎知識

脳卒中（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血）は突然発症し、運動機能障害を引き起こすことが多い病気です。

本資料では、運動機能障害の種類や日常生活への影響について解説し、回復に向けた基本的な情報を提供します。

運動機能障害とは？

運動機能障害とは、脳卒中による脳や神経の損傷により、手足の動きが制限される状態を指します。主な症状には、体の片側に麻痺が生じる〈片麻痺〉、筋力の低下、バランスが取れなくなる〈協調運動障害〉、筋肉がこわばる〈痙縮〉、歩行が困難になる〈歩行障害〉などがあります。これらの症状は、個人によって異なりますが、適切なりハビリテーションによって改善の可能性があります。日常生活をスムーズに送るためにも、早期の対応が大切です。



運動機能障害が引き起こす生活の変化

運動機能障害は、日常生活のさまざまな動作に影響を与えます。例えば、食事では箸やスプーンが使いづらく、こぼしてしまうことがあります。着替えではボタンを留めたり、靴を履いたりする動作が難しくなります。入浴や排泄の際には、補助や介助が必要になることもあります。さらに、外出が困難になり、社会活動の機会が減少し、精神的なストレスや孤立感につながることもあります。生活の質を向上させるために、適切なサポートが重要です。



Column

脳卒中による主な運動機能障害の種類

脳卒中による運動機能障害は、損傷部位や症状の重症度によって異なりますが、主に以下のような症状が見られます。

片麻痺（へんまひ）	体の片側の動きが不自由になる
筋力低下	手足の力が弱くなり、歩行や細かい動作が困難になる
協調運動障害	ボタンを留める・箸を使うなどの細かい動作が難しくなる
痙縮（けいしゅく）	筋肉が固まり、手足がこわばる
協調運動障害	バランスを崩しやすく、転倒のリスクが高まる



(2025.3.19)

画像提供：PIXTA

